

脳肺吸虫症の臨床並びに病理組織像に就いて

附 脳肺吸虫症の統計的観察

細川 修治* 森田 健規知* 藤井 正俊*

山口医科大学病理学教室

森 涉** 下 司 孝 磨**

高知市 町田病院

(昭和31年11月2日 受領)

肺吸虫は本邦に於ては岐阜, 新潟, 徳島, 高知, 愛媛, 山口, 静岡, 熊本, 大分, 長崎及び大阪等で屢々認められた寄生虫である。最近では新流行地が発見される一方, 従来の可成り流行した岐阜県では寧ろ減少している状態である。新流行地の発見は診断法の進歩によるもので富永及び横川等の皮膚反応によるところが大である。又近来外科分野の進歩に伴い脳肺吸虫症の発見頻度は増加の傾向がある如くである。さて従来から肺吸虫の異所寄生は比較的多く就中脳寄生例が最も多い。然も古くは剖検により確められたが, 最近では手術により病巣が明確にされ剩し手術治験例が屢々報告されるに至つた。私共は脳肺吸虫症例の手術材料及び各方面の好意による材料の組織学的検索並に統計観察を試みる機会を得たので脳肺吸虫症に就て若干の考察を試みた。

検 索

(1) 福○ 女 3才 高知県高岡町

突然右半身不随及び言語障害を来したが医治により一時治したが, 2~3月後右半身の痙攣発作を来したがこれも軽快す。其後項部痛, 嘔吐及び脱力状態著しいため高知市町田病院に入院す。(写真1参照)

脊髓液 初圧250 mm H₂O 濁濁 細胞⁶⁰/₁—好酸球78% 淋巴球19% 虫卵(—)

血液像 Er. 320万, Leu. 6000 Hb 80% 好中球55%, 好酸球10%, 淋巴球27%

喀痰肺吸虫卵(—)

手術(森博士)左後頭葉の正中線に近い皮質の部分に

*Shuji Hosokawa, *Kenkichiro Morita, *Masatoshi Fujii, **Wataru Mori & **Takamaro Geshi: On clinic and histopathology of cerebral paragonimiasis. Supplement: statistical observation on cerebral paragonimiasis. (*Department of Pathology, Yamaguchi Medical School, Ube, **Machida Hospital, Kōchi)

拇指頭大の囊腫様病巣があり, 穿刺により黄色液体2.0 ccを除去す。病巣の大きさ3.5 × 1.4 cm大で長軸は側室に向う。死亡

病巣は拇指頭大で囊腫様感あり, 表面は比較的平滑で帯黄灰白色である。剖面乳白色で内に壊死物質をいれ被膜これを包む。

組織像 皮質に形成された多房性囊腫様腫瘍で表面の被膜は比較的厚い。病巣内には軟化巣があり, 一部は軟泥状物が流出した為空洞様を呈する。壊死巣内には黄褐色の卵殻を有する肺吸虫卵がある。其他シャルコ・ライデン結晶体及び大小紅染の蛋白凝固物質がある。壊死巣内には稍々大なる紅染顆粒を有する膨化した細胞があり, その胞体内にシャルコ・ライデン結晶体を認めるものすらあるところからこの細胞は変性した好酸球と思われる。壊死巣外側には少量の纖維芽細胞があり更にそこには多数のプラズマ細胞及び淋巴球, 少量のグリア細胞と好酸球がある。其他ヘモヂデリンの沈着もある。卵は已に変形し内容不明であるが, 形は逆卵形で一側に小蓋がある点から「ウ」肺吸虫卵である。

(2) 西○ 女 10才 高知県高岡町

頭痛, 嘔吐があり, 左上下肢運動麻痺を来したので町田病院に入院す。

脊髓液 初圧 280 mm H₂O 水様透明。細胞¹⁷⁰/_{3.2} 梅毒反応陰性

血液像 Er. 452万 Leu. 5200 Hb 85% 好中球39%, 好酸球 16%, 淋巴球 30%, 単球 5%

手術(森博士)右後中心廻転部の皮質が黄色調をおび, その部を穿刺するに2~8cmの部に硬い抵抗を触れる。その部に2~3cm大の結節状コが認められる。

組織像 病巣は大部分は肉芽組織であつてその中に黄褐色の卵殻を有する卵が散在し, その周には好酸球, プラズマ細胞及び異物巨態細胞等が混在し, 其他脂肪顆粒

細胞が多数認められる。ヘモジデリン沈着もある。血管は充盈し或るものは壁の肥厚、周囲に細胞浸潤が認められる。出血も甚しい。其他ウイルヒョウ・ロビン氏腔にはグリア細胞浸潤がある。本例にはシャルコーライデン結晶体はない。卵は大部分は内容は脱失するか異物巨細胞に侵襲されているが形並に小蓋等から「ウ」肺吸出卵である。

(3) 久○田 ♂ 23才 高知県幡多郡後川村、左上下肢の運動麻痺、言語障害等のため町田病院に入院す。

脊髓液 初圧 330 mm H₂O 水様透明 細胞 1/3.2 (写真5参照)

手術 (森博士) 右後頭部の前方はローテンド溝、中央は正中線に至る硬い腫瘤が表面から約2 cmの深部に認められる。腫瘤は小さい硬い病巣が相寄り不規則な塊状を呈し、その大きき6.5 × 4.0 cm、重量は27.5 gである。腫瘤は弾性硬で外面は褐赤色を呈し、断面は充実性で乳白色の組織が索状に僅か附着する程度で肉眼的には卵及び壊死物質は認め難い。

組織像 結節状の病巣の中央には広汎な壊死巣があり周辺には黄褐色の卵殻を有する卵が散在する。卵の内容は已に脱失したり、異物巨細胞の侵襲を受けたものが多い。壊死巣内にはシャルコ・ライデン結晶体が数ヶ散在する。壊死巣外側には結合織の増生がある。その外周には好酸球、プラズマ細胞及び淋球の浸潤が可成り強い。其他細血管の充盈強く小出血も混在する。細血管壁は肥厚して硝子様化の認められるもの、内皮の増生するもの、血管周の細胞浸潤の著明なもの等が認められる。その他グリア細胞の軽度の増生、ヘモジデリン沈着等も認められる。

(4) 市○ ♂ 7才 高知県高岡町

右胸部の激痛発作後一時軽快し、次いで背痛を訴える。更に両側運動麻痺を来して町田病院に入院す。入院後一時軽快した如き状態が続いたが再び運動不能となる脊髓撮影法ではモレヨドール下端がIV胸椎にて笹葉状を呈して硬膜外腫瘍の像を呈した(写真6参照)。

脊髓液 圧 100—0 mm H₂O 細胞 5/3.2

手術 (森博士) IV~IX B. W. に至る腫瘤を別出す。腫瘤は長さ9 cm、重量9.5 g表面平滑にして上下は嚢腫様であるが中央は充実性である。腫瘤は1 mmの白色臍様組織にて包被され、内部は白亜化した壊死組織が灰白黄色を呈する。

組織像 被膜は厚く且つ硝子様化して細胞成分は殆んどない。内には壊死物質充満し、細胞の形態は全く不明

である。黄褐色の卵殻が多数混在している。卵の内容は脱失して石灰沈着が認められる。シャルコーライデン結晶体はない。

(5) 岡○ ♂ 19才 高知県安芸郡北川村

激しい頭痛発作後右半身不随を来し痙攣発作屢々あつた為町田病院に入院す。

脊髓液 圧 200 mm H₂O 細胞 1/3.2

入院中言語障害、右上下肢運動不全麻痺、視野狭小を来す。

手術 (森博士) 左後頭部で硬膜と蜘蛛膜と広範に癒着す。脳表面は濁濁して黄色調をおび脳廻転な扁平化す。表面から約3 cmの部に小指頭大の腫瘤多数相集り大きな集塊となり小児手拳大に達し重量18.5 gである。但し別出は一部のみ。表面は比較的平滑で厚い被膜に包まれ、内に白亜化した部がある。

組織像 中央に壊死巣があり細胞輪廓は全く不明で均等性である。その中にコレステリン針状結晶及び石灰塊が認められる。卵は破壊されて不正形の卵殻丈が認められる。壊死巣外前には厚い被膜形成がある。更に前側には淋球、プラズマ細胞浸潤及びヘモジデリン沈着等がある、小血管壁の肥厚及び管周に少許の円形細胞浸潤が認められる。粟粒大の卵結節の中央は壊死に陥り已に硝子様化する。卵は内容脱出して然も変形甚しいが卵殻、小蓋及び形態上から「ウ」肺吸出卵である。本例は膠原繊維、格子状繊維の増生が著明である。

(6) 真○ ♀ 15才 高知県高岡町

右半身不随及び癲癇発作及び左眼同側半盲症を来した為町田病院に入院す。

血液像 Er. 365 万 Leu. 6300 Hb 75% 好中球48% 好酸球4% 淋球48% (写真2.7参照)

手術 (森博士) 右後頭部の硬脳膜は白色濁濁し、切開に附し黄色膿汁様液が流出す。脳表面は黄色調を呈し廻転は扁平化して脳溝も浅い。皮質下に多数の病巣がありそれ等病巣が相集り大きな病巣を形成し、内には軟泥状の壊死物質がある。側脳室の後角は前方中心溝の位置まで圧迫されている。別出標本の重量は73.9 gである。

組織像 病巣中央には壊死物質が充満し硝子様化の傾向が強い。壊死巣周辺には黄褐色の卵があるも已に内容脱出して変形を呈するもの、石灰沈着したもの等が多いが、卵殻の形態及び小蓋等から「ウ」肺吸虫卵と断定す。壊死巣外側には被膜形成あるも厚くて細胞成分は乏しく硝子様化の傾向が強い。更に外側にはプラズマ細

胞, 淋巴球, グリア細胞浸潤の外好酸球の浸潤も認められる。シャルコ・ライデン結晶体はない。

(7) 山口医大 森岡例 (第1例)

患者 39才 ♂ 韓国人 全身痙攣及び意識不明等を来す。エメチン注射後突然ジャクソン氏型痙攣発作を招来した例である。

脳病巣 左前頭部超鳩卵大腫瘤, 大きさ $1.8 \times 0.9 \times 0.5$ cm 被膜で被れ軟かくて波動を認める。剖面上は厚い被膜で被れた大きい病巣と大豆大の病巣から成り, 内には灰白色軟泥状物があり, 被膜に接して黄褐色の色素沈着層があるが, 中には多数の肺吸虫卵の集合がある。

組織像 大小の壊死巣が散在し, 外側には黄色の卵殻を有する卵が多数ある。その外側には結合織性の硝子様化の傾向ある被膜がある。その外周には主にプラズマ細胞, 淋巴球及びグリア細胞の浸潤がある。多数の新生細血管の充盈著明であり, 血管周のグリア細胞浸潤がある。

(8) 山口医大第2例*

患者 15才 ♂ 山口県
左上肢及び顔面の間代性痙攣

脳病巣 右頭頂, 側頭部の腫瘤。これは拇指頭大から示指頭大の腫瘤相集り大きな腫瘤形成す。囊腫状で波動がある。

組織像 処々に壊死巣があつて均等性にしてコレステリン結晶体及び石灰沈着が認められる。卵が外側に散在するが変形したり石灰沈着のものが多い。更に外側には結合織があり一部は硝子様化の傾向を示す。その外周にプラズマ細胞, 繊維芽細胞, 淋巴球, 好酸球等の浸潤があるがシャルコ・ライデン結晶体は認めない。細血管新生も多く且つ充盈も著明で出血がある。石灰沈着が諸所に認められるが細血管壁特に中膜に石灰沈着がある。

(9) 徳大 佐伯氏報告例**

患者 9才 ♀ 徳島県 頭痛, 嘔吐, 視力障害を来し手術

脳病巣 右後頭部囊腫状腫瘤4ヶ 結節は被膜に包まれ, 内部は大部分壊死巣で均等性であり, 中にシャルコ・ライデン結晶体が散在する。周辺には変形乃至石灰沈着した卵がある。そこには巨態細胞もある。外側には結合織があり, 外層には好酸球, 淋巴球を少数混じたプラズマ細胞から成る浸潤巣がある。更に外層にグリア細胞

が認められる。血管内に卵栓を認められた。佐伯氏から惠送の標本ではシャルコ・ライデン結晶が認め得なかつたが血管周に炎性肉芽組織の増生が認められた。(写真3参照),

以上の9例に就ての脳病巣の一覧表は第1, 2表の如くである。

考 察

(1) 肺吸虫の脳異所寄生の頻度

肺吸虫の蔓延は北は新潟県から西は九州に亘つて広く蔓延している。文献或は検査で虫体, 虫卵或は被囊幼虫等が検出された地区は次の如くである。即ち北海道・東北では北海道, 秋田, 宮城の3県, 関東は東京, 茨城, 千葉の3県, 中部は静岡, 愛知, 岐阜, 長野, 山梨, 三重の6, 北陸は新潟, 富山の2, 近畿は京都, 大阪, 奈良, 和歌山, 兵庫の各府県, 中国では岡山, 広島, 山口, 鳥取の4, 四国, 九州は各県に亘つて報告例がある。併し虫卵が発見された丈に過ぎない地区もある故直ちに肺吸虫の流行地とは言えない。それにしても虫卵排出者が居ることは第一中間宿主である河貝子に感染する危険があり更に第二中間宿主である川蟹(アメリカザリガニを含めた)に感染する恐れがある。細川の教室の調査では高知愛媛, 山口県のモクスガニの被囊幼虫の感染率は高率で90%程度である。併し人体寄生は必ずしも左程高率ではなく, 高知県では最高地区で住民の約10%, 愛媛県では被検者の14%, 山口県では3.2%である。又肺吸虫は肺以外の臓器に迷入して異所寄生する。野々村, 郭等の統計及び私共の調べた範囲では異所寄生204例中脳及び脊髓系統は105例で(脊髓硬膜外寄生例4を含む)で異所寄生の半数余の51%である。野々村の脳寄生は異所寄生の30.3%に当ると言うから吾々の統計では遙かに高率である。脳寄生例が他の異所寄生に比し特に多いと言う訳ではないと思うが, 只その症状が激烈なるため医治をもとめる者が多いこと, 脳外科進歩によつて手術的に治験されること等からして発見率が高いと思う。実際胸部肺吸虫症の場合でも自覚症が比較的軽微であつて放置されることが多い。尚, 脳寄生105例中手術例は30であつて近來は手術例が極めて多く, 吾々の検査例も全部手術によつて病巣の剔出されたものである。

(2) 年齢及び性 大体20才以下に多く且つ男性に多いことは従來の文献と同様である。

(3) 臨床症状 従來の報告の如く突然の頭痛, 嘔吐, 癲癇様発作, 麻痺等を来し, 時には発熱を伴い脳膜炎症状を呈した例もある。検索例は症状とX線像から脳

* 本学第二外科学教室 徳岡教授, 横山助教授の御好意による惠送例 未発表

** 佐伯氏の御好意による御惠送例

第1表 脳肺吸虫症症例概略表

要項 例	性 別	年 齢	発 症	手 術	経 過	症 状	髓 液 圧	好 酸 球	咯 痰	病 巣	大 小 cm	組 織 像	浸潤細胞					備 考
													形 質	淋 巴 球	大 単 核 球	好 酸 球		
福 原	♀	3	昭和27年3月20日	昭和27年4月23日	約1カ月	右半身不随 言語障害 嘔吐 首の痛み	250 mm H ₂ O	78% 末血(10%)	虫卵(一)	左後頭部 囊腫	3.5×1.4	軟化巢・肉芽腫	(+)	(++)	(++)	(+)	(±)	死亡
西 本	♀	10		昭和27年9月13日		左上下肢運動 麻痺 嘔吐 頭痛	280 mm H ₂ O	末血(16%)		右後中心回転 結節	2~3 cm 大数 ¹⁾	肉芽腫	(-)	(++)	(++)	(+)	(++)	治癒
久 保 田	♂	23	昭和28年	昭和29年5月31日	1年	左上下肢運動麻痺 言語障害 頭痛 悪心	330 mm H ₂ O	末血(12%)		右後頭部 結節	6.5×4.27.5	肉芽腫	(+)	(++)	(+)	(+)	(++)	治癒
市 原	♂	7	昭和27年春	昭和29年5月22日	2年	右胸部痛 背痛 両脚運動麻痺 X~XII胸椎 右側痛	160 mm H ₂ O			IV~IX胸椎 硬膜外 囊腫 結節	6 9.5	肉芽腫	(-)					手術後下肢 麻痺軽度 Spastischer Gang.
岡 本	♂	19	昭和14年15歳頃	昭和30年7月16日	4年	頭痛 右半身不随 痙攣 言語障害	200 mm H ₂ O			左後頭部 囊腫 結節	小児手拳大 18.5	軟化壊死・囊腫	(-)	(+)	(+)			石灰沈着 著明 略々治癒
真 鍋	♀	15	昭和29年8月	昭和31年2月14日	3年	癲癇 左半身不随		末血(4%)		右後頭部 囊腫	73.7	囊腫・肉芽腫	(-)	(+)	(+)	(+)	(±)	ヘモジ デリン (+)
山口医大 例1	♂	39	昭和21年頃	昭和29年8月	肺脳症約718年	全身痙攣発作 意識不明 Jackson型痙攣 右側Deviation Conjugate 右口唇, 右手に進行	140 mm H ₂ O	(一)	虫卵(十)	左前頭頭頂部 結節 囊腫		肉芽腫 軟化壊死・囊腔	(-)	(++)	(++)		(±)	
山口医大 例2	♂	15	昭和21年頃	昭和29年12月27日	約8年	左上肢間 代性痙攣 左顔面間 代性痙攣 言語障害	150 mm H ₂ O	(一)	虫卵(一)	右頭頂側頭部 囊腫		肉芽腫	(-)	(+)	(+)		(+)	
徳島 医例	♀	9	4カ月前	4カ月前		頭痛 嘔吐 足のよろめき 視力障害		(一)	虫卵(十)	右後頭部 囊腫 結節		肉芽腫	(+)	(++)	(++)		(+)	

第 2 表

	著者等の例	従来の例
癲癇, 痙攣	5	36
左半身不随	2	7
右半身不随	2	6
左上肢麻痺	2	11
右上肢麻痺		2
左下肢麻痺	1	8
右下肢麻痺		1
両下肢麻痺	1	3
右上肢左下肢麻痺		1
四肢麻痺		1
左顔面麻痺		5
右顔面麻痺		3
知覚鈍麻		2
言語障碍	4	4
頭痛, 眩暈, 嘔吐	5	32
視力障碍	2	11
突然失神		4

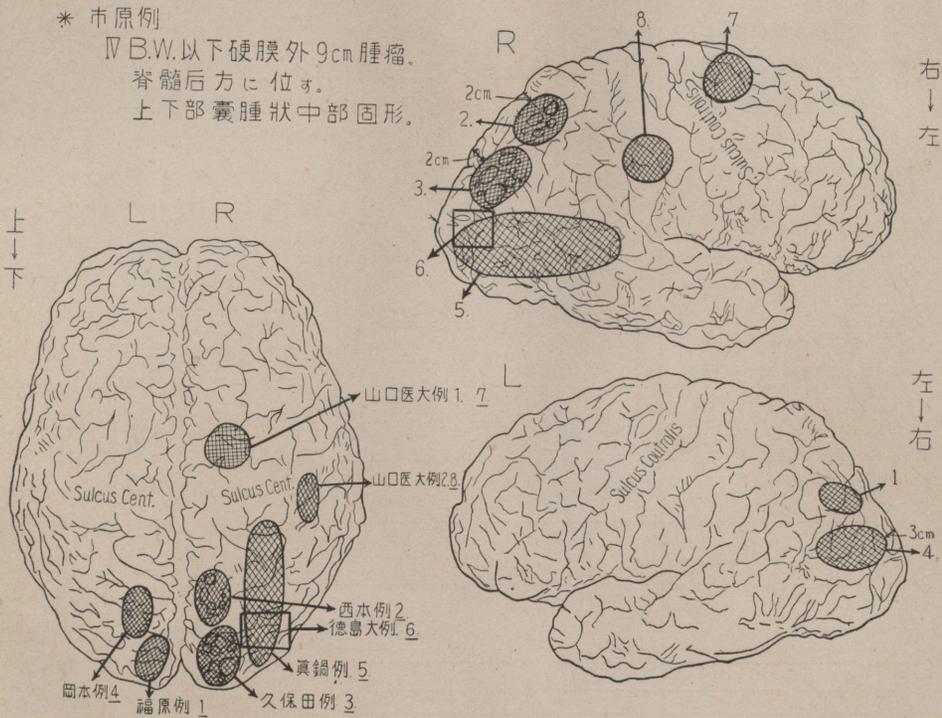
腫瘍と診断され手術された例であり, 第 4 例は脊髓撮影により脊髄硬膜外腫瘍の疑で手術されたものである。兎

も角臨床症状は表 1・2 の如く従来の統計に示された如くである。症状は突然激烈な症状発現するため真正癲癇, 脳膜出血, 脳出血, 脳軟化症, 尿毒症, 脳炎等と鑑別を要することがある。

(4) 脳, 脊髄の病巣 脳, 脊髄の何れの局所にも病巣形成が起るが, 従来の統計上脳では後頭葉, 側頭葉に病巣が多く, 右側は左に比較して多い。吾々の検索例は後頭葉が最も多く, 右が左より多い。脊髄の異所寄生は極めて稀有であるが, 森安の報告があるが, 森等による第 4 例, 道免・安部, 小野・西井等の報告があるに過ぎない(第 1 図, 第 3 表参照)

脳の病変は稍々硬くて結節として認められるものと, 囊腫様で軟いもの 2 つの型が認められる。これは稲本も夙に指摘したところである。両形が劃然と区別されないのもあれば, 両型が混在しているものもある。兎も角病巣は皮質下或は皮質で表層に近い部位に形成されることが多いが, 自質内, 脳核等にも病巣形成する場合もある。病巣の大きさ, 形態も区々であるが多くは円形, 楕円形にして大豆大, 示指頭大, クルミ大であるが之等が相癒合して大なる病巣を形成する。

第 1 図 脳肺吸虫症例病巣位置



第 3 表

脳病巣所在	著者等の例	従来の場合
左大脳半球		1
左前頭葉	1	6
側頭葉		12
後頭葉	2	10
頭頂葉	1	2
レンズ核		3
内外包		2
小脳		1
小計	4	37
右大脳半球		1
前頭葉		8
側頭葉	1	14
後頭葉	4	15
頭頂葉	1	6
レンズ核		2
内外包		2
小脳		
小計	6	48

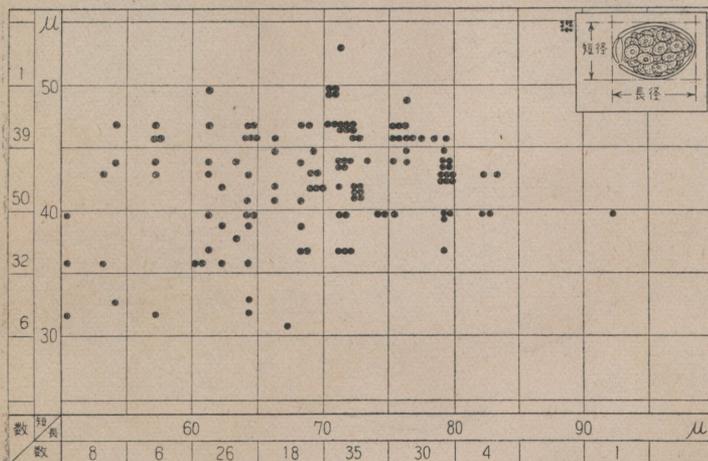
結節状のものは一般に小さく形は円形か楕円形である。結節の中央は灰白色か灰白黄色を呈し結核の乾酪巣に似ている。その周には肉芽組織がある。硬度は一般に硬い。屢々褐色の着色があり、そこに卵の集団が認められることがある。組織像は中央には壊死巣があり、大体均等性であるが時には滲出細胞例えば好酸球の崩壊像を認めることがある。壊死巣内の卵は周辺に偏在する。卵は多

くは殻のみ認められ、内容は脱失するか巨細胞が侵入するか或は石灰沈着が認められる。卵存在部には巨細胞が集積している。其他コレステリン針状結晶及び石灰沈着の認められるものもある。シャルコーライデン結晶も認められるが常に認められるとは限らない。9例中2例にこれを認めたのみである。第1例は好酸球の崩壊像が僅に認められる状態であつて、膨化した細胞内に結晶体が認められた。第3例では詳細に検査したが2~3コ認められたに過ぎない。

壊死巣周囲には肉芽組織の増生があるが各例とも繊維化して結合織性被膜となり病巣を包囲している。その外側には多くはプラズマ細胞、好酸球、リンパ球等の浸潤があり、更にその部にグリア細胞の増生がある。卵や巨細胞及びシャルコーライデン結晶は中、外層には殆んどない。滲出細胞は各例ともプラズマ細胞が多く次いで好酸球、リンパ球等であるが、併じ好酸球の殆んど認められない場合もある。血管周に細胞浸潤の著明な例では内膜の肥厚、内皮細胞の増生が著明である。

嚢腫形として特別の形態ではないが多くは不規則であり、大きさも種々ではあるが一般には稍々大きい病巣を形成する。被膜は灰白色或は灰白黄色で薄くて且つ波動がある。内には濃厚な膿汁様泥状物を容れ穿破すると空洞となる。組織像は中央は軟化した物質で、その周辺に少数の卵と巨態細胞が散見される。中層には結合織がありその周囲にはグリア細胞の増生と若干のプラズマ細胞、好酸球の浸潤があるに過ぎない。シャルコーライデン結晶は吾々の検索例では見当たらない。この形は軟化嚢胞の形態である。以上の如く脳病巣は大体3層に区別出来る。

第2図 脳肺吸虫症脳内虫卵の大きさ (9例綜合)



来る。結節形では内層は壊死巣で卵や巨細胞があり、中層には結合織がある。外層にはプラズマ細胞、好酸球、リンパ球、グリア細胞層がある。初めは虫体或は卵を中心に滲出炎が起り漸次壊死を来し、次いで周囲に肉芽組織形成し更に外層にプラズマ細胞等の細胞反応を来すものであろう。即ち初めは滲出炎で次いで増生炎の形をとるものである。脊髄の病巣も略々同様である (写真1, 2, 3, 4, 第3図参照)。

好酸球は寄生虫病変の際増加することは事実であるが、これには消長があつて毎常一定の増加を維持するものではないことは三浦、及び篠崎の実験から首肯される。病巣に於ても同様で感染早期では局所に好酸

球を主とする滲出性炎症反応が起るが、時期の経過につれて増生性炎を呈し局所には好酸球は必ずしも増加しない。シャルコライデン結晶は好酸球と密接な関係を有する故これ又病巣に常に見出されるとは限らないことも当然である。

卵は固定後であるため喀痰中のものに比して稍々小型である。大体 $0.06\sim 0.08\times 0.035\sim 0.05\text{mm}$ 大で三浦の数値より低い。形は逆卵形でウ肺吸虫卵である。(第2図参照)

肺吸虫の脳への移行に就いては横川の説即ち血管周の粗組織を通り頭蓋腔内に侵入することは一般に肯定されている。肺内に寄生した虫体はよく移動することは事実であるし、移動して極めて大きい虫嚢形成あることも周知であり、内野の樹脂鋳形標本はその状をよくとらえている。佐伯は脳肺吸虫症剖検例に於て脳血管内に卵嚢を認めたことから脳病巣は虫体及卵が血管内栓塞から起つたと思われると述べ、清水は脳病巣の血管内卵の存在する点から脳病巣の卵が血行内に移り更に肺動脈に卵嚢塞を来したと推論し、湯本・吉永等の文献を引用してその合理性を強調している。又脳内に虫体の発見された例は近来では戸田の1例であり、従来の例でも僅々5例に過ぎない。これた虫体が脳内で死滅軟化するためであろう。偕て吾々の興味は佐伯の推論である。

吾々は被囊幼虫の血行感染移行の想定のもとに実験を進めて来たところ、鋳型標本にて血管破綻を認め、その部の連続切片で幼虫が門脈外に出る像を把握し得た点から幼虫が血行によつて臓器に移行することも予想される。佐伯の推論も成立する如く思考される。脊髄硬膜外寄生例に就て道免・安部は脊髄附近の疎性組織を穿通して直接脊髄管に接したものと述べたが虫体習性からは一応考えられる。併しこれらは可成り困難であろう。脳からの下降或は血行による迷入を考慮に入れるべきではなからうか。

(5) 診断について

胸部肺吸虫症を有する場合脳症状が惹起すれば診断は比較的容易であるが、脳部肺吸虫症の不明の場合は診断は困難である。脳肺吸虫症の患者で胸部肺吸虫症の不明の場合が多い故、他の疾患例えば脳腫瘍、脳出血、脳炎或は脳膜炎等との区別が困難である。

脳寄生虫症の場合は脊髄液内に好酸球の出現することが *Bumki, Mari*, 野々村等により強調され、その診断価値が高く評価されている。好酸球は脳病巣中に毎常出現するとは限らない故脊髄液中にも常に好酸球が出現す

るとは限らない。随つて好酸球を認めざるため脳肺吸虫症の否定は出来ない。脳肺吸虫症の疑のある場合は皮膚反応を実施することを強調したい。特に肺吸虫蔓延地或は韓国人に対しては本反応を行うことが肝要である。富永の P G 反応は肺吸虫症既往症を有する者にも陽性に現れる。細川、三浦等によれば感染から陽転の時期は動物実験では 3 週以後である。皮膚反応に就て横川は V. B. S 抗原による皮内反応を報告して以来各方面で応用されている。又補体結合反応も診断的価値が高い。胸部の X 線検査も補助診断の一助になるものである。

結 語

(1) 脳及び脊髄肺吸虫症 9 例に就て組織像の解析を試み、病巣は 3 層から成り、中心層は壊死巣で虫卵、巨態細胞、シャルコ・ライデン結晶体等を混じ、中層は結合組織、外層にはプラズマ細胞、淋巴球、好酸球、グリア細胞等の集簇巣がある。

(2) 結節型の病巣は虫体乃至卵を中心に滲出性炎次いで増生性炎に進展するものであり、嚢腫型は脳軟化嚢胞の形をとる。

(3) 統計的観察を行い肺吸虫の脳移行に就ても若干の考察と推論を試み、診断面にも言及した。

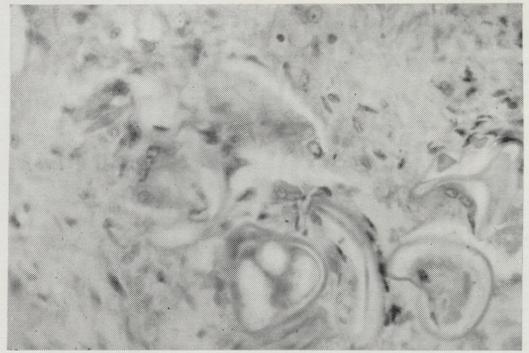
検査材料御送達の徳島大医学部佐伯氏、本学第二外科徳岡教授、横山助教授に衷心から感謝する。本研究御協力の教室助手諸君に敬意を表する。

主要文献

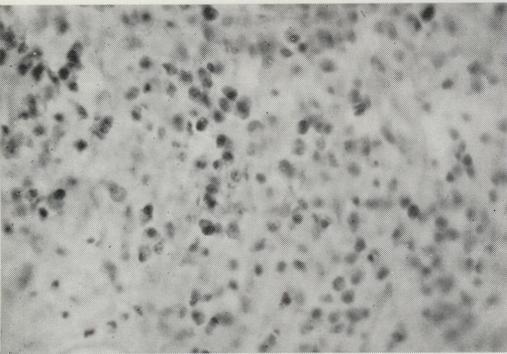
- 1) 赤岩八郎, 八田稔, 林田政 (1931): 肺ダストマ虫の大脳寄生に因する脳腫瘍症状を呈せし一症例に就て日本外科学会雑誌, 32 (4), 695~712.
- 2) 赤松高之 (1952): 肺ダストマ症の剖検例, 児科診療, 15 (5), 360.
- 3) 青木義雄, 松村達夫 (1928): 興味ある経過をとりし肺ダストマの一例, 神経学雑誌, 29 (3), 222~224.
- 4) 道免久士, 安部安和 (1955): 脊髄硬膜外に寄生せる肺吸虫, 外科, 17 (9), 678~680.
- 5) 江本修治, 竹内荘治, 川村義一, 天羽一夫, 木津新吉 (1954): 脳内肺ダストマ症の一例, 臨床外科, 9 (4), 217.
- 6) 橋口兼達, 時住純孝 (1954): 肺ダストマの脳内寄生の一例, 小児科診療, 17 (2), 286.
- 7) 星忠夫 (1941): 脳に寄生せる肺ダストマ症の一例, 児科雑誌, 47 (11), 1453.
- 8) 細川修治 (1954): 高知県, 愛媛県, 山口県産モクズ蟹内の肺吸虫被囊幼虫に就いて, 衛生動物 IV (小林博士古稀記念号特別号), 150~158.
- 9) 細川修治 (1954): 肺吸虫症の病理, 山口医科大学医学会特別講演.
- 10) 細川修治, 三浦義徳 (1952): 肺吸虫症に関する研究 (第1報) 実験的犬肺吸虫症の肺臓病理解剖学的変化とレントゲン像の比較研究, 日本病理学会会誌, 41, G, 55~56



1-1



1-3



1-2

1 福原例

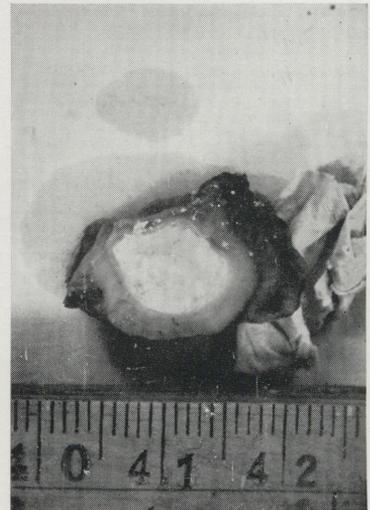
1-1. 卵と肉芽組織

1-2. 強拡，細胞浸潤，形質細胞，好酸球

1-3. 強拡，卵及び Charcot Leydeu crystal.



2-1



2-3



2-2

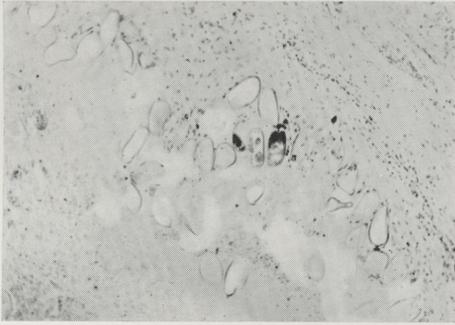
2 真鍋例

2-1. 摘出標本全景

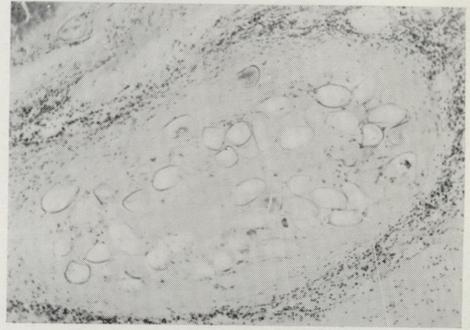
2-2. 剖面上白亜化を示し，其の周囲に被膜を見る。

2-3. 卵と肉芽組織

3 徳島医大例 卵と肉芽組織



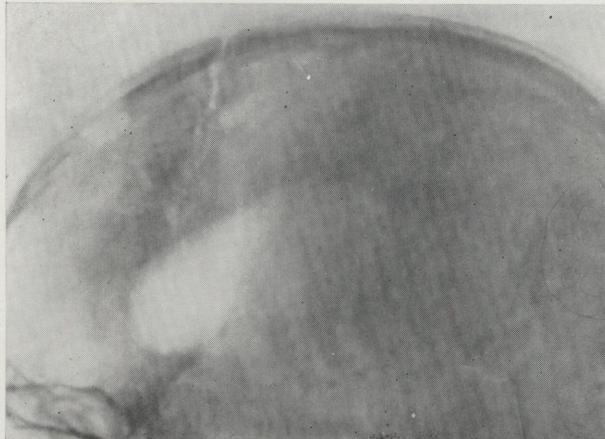
4 山口医大例 卵と細胞浸潤



第 3 図
卵結節と組織像

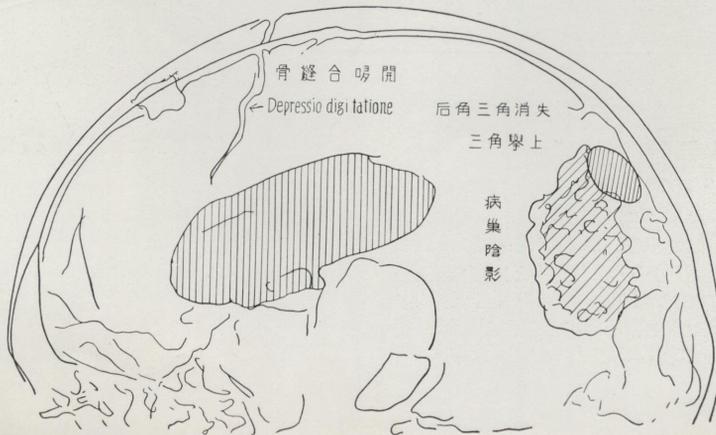


5 久保田例

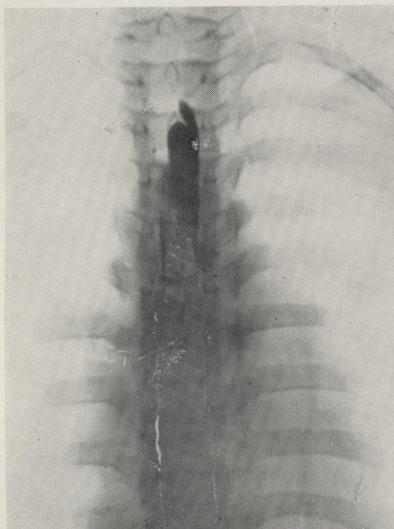


右下側臥位

Pneumoencephalography S. 29. 5. 18. 426 D.



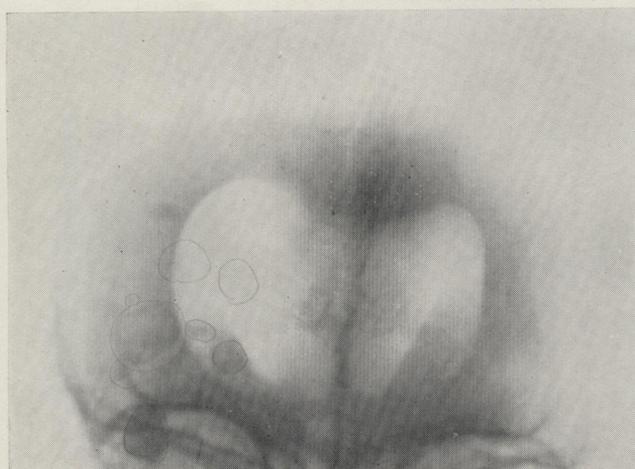
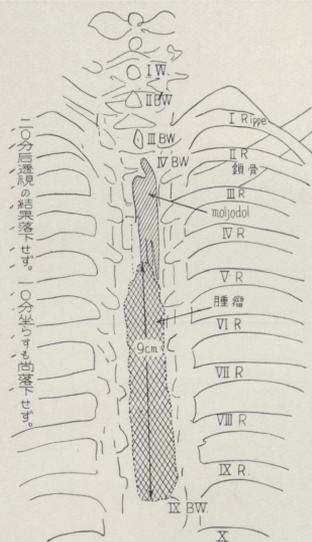
6. 市原例



Myelography (下行性 moljodol)

S. 29. 5. 17

後頭下穿刺モルヨドール注入後 45 分
傾斜 15 度，頭部高位，仰臥位

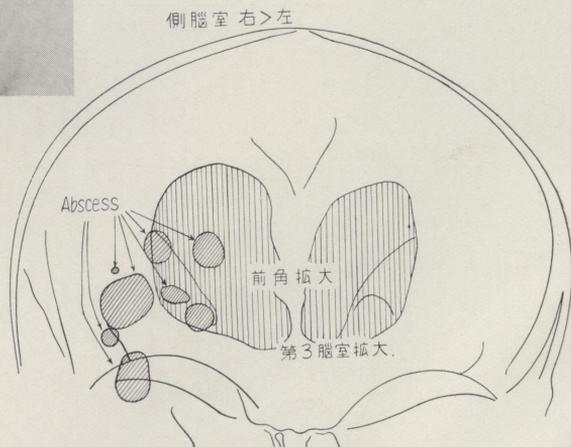


7 真鍋例

Pneumoencephalography air 65 cc. injected

S. 31. 1. 25 74 A.

仰臥後頭位



—11) 細川修治, 高橋一郎(1956): 犬肺吸虫症の肝脈管系の形態学的研究—肺吸虫被囊幼虫感染による血管の変化, 寄生虫学雑誌, 5(2), 52. —12) 細川修治, 森渉, 下司孝麿 (1956): 脳肺吸虫症の病理組織学的研究, 寄生虫学雑誌, 5(2), 68. —13) 池田誠一 (1922): 肺デストマ虫に因する脳軟化嚢腫並びに脳病巣に於けるグリア殖殖知見補遺, 児科雑誌, 266, 1~28. —14) 伊藤金逸, 加藤準逸 (1941): 脳の肺デストマ症の一部検例, 成医会雑誌, 60(2), 320~331. —15) 岩崎基 (1955): 肺吸虫症の臨床, 臨床内科小児科, 10(4), 207~218. —16) 稲本亀五郎 (1915): 肺二口虫病, 朝鮮医学会雑誌, 16, 245~261. —17) 加藤準逸 (1937): 虫卵栓塞による脳軟化の一例, 日病会誌, 27, 469~470. —18) 小松弘邦 (1937): 脳部肺デストマ病によると思われる、四分の半盲の一例眼科臨床医報, 32, 311. —19) 久保定治, 岡本広太 (1924): Westerman 氏二口虫の船員の脳髓及び其の他の諸組織に寄生したる興味深き実例の研究, 日病会誌, 14. —20) 松村達夫 (1933): 流行性脳炎様症状を呈せる脳に於ける肺デストマ症の一例, 東京医事新誌, 1814, 325~329. —21) 三浦義徳 (1952): 肺吸虫の研究, 高知県立衛生研究所研究報告. —22) 光野孝雄 (1951): 肺吸虫による脳腫瘍の手術治験例, 脳と神経 4(1), 28. —23) 森千恵子, 花沢栄一 (1953): 肺吸虫脳内異所寄生の一部検例, 新潟医学雑誌, 67, 下(7) 627~629. —24) 森岡久 (1955): 脳内肺デストマ症の一例, 山口臨床医学, 3, 131~134. —25) 森下薫 (1951): 最新寄生虫病学 I, 医学書院, 東京. —26) 森安連吉 (1919): 肺嚢デストマ症兼肺デストマに因する右側半身不随症の一例 (臨床講義) 朝鮮医学会雑誌, 16, 95~100. —27) 新津勝宏 (1955): 肺吸虫の脳寄生に因る Jackson 型癲癇発作重積症の一手術治験例, 東北医学雑誌, 51(2), 182. —28) 野々村太郎 (1941): 肺デストマ寄生性脳膜炎の一例 (殊に脳脊髄液中好酸性白血球の出現) 岡山医学会雑誌, 53臨床特集1号, 54~68. —29) 岡崎忠夫 (1950): 脳症状を以て発見された肺デストマの一例, 臨床外科, 3(2), 80. —30) 小野典郎, 西井長武 (1955): 家族的に発生せる肺吸虫症の種々相, 日本外科学会雑誌, 56(1), 113~114. —31) 佐伯重雄 (1954): 肺吸虫異所 (脳内) 寄生の剖検例, 日本病理学会誌, 43G, 678~679. —32) 佐々木芳綱 (1949): 後頭葉肺デストマ症に因る右側同名性半盲症の一例について臨床眼科, 3(8) 337. —33) 柴田定一, 細川修治 (1951): 最新寄生虫病学 IV, 医学書院発行, 東京. —34) 清水文雄 (1955): 脳腫瘍と診断せられた肺吸虫脳内寄生の一例, 東京医事新誌, 72(9), 474~475. —35) 杉原芳夫 (1952): 肺デストマの脳室寄生例, 臨床内科小児科, 7(6), 273~274. —36) 隅田精一,

森本勉 (1936): 長崎県高来郡に於ける肺嚢デストマの症例並びに長崎地方に於ける本疾患の状況について長崎医学会雑誌, 14(上) 653~665. —37) 鈴木直光 (1921): 脳に於ける肺デストマ寄生症, 神経学雑誌, 20(5) 310~312. —38) 高橋一郎 (1955): 犬肺吸虫症の肝脈管系の形態学的研究 (予報) 日本寄生虫学会第11回西日本支部会, 397. —39) 高均睦年, 松枝秀 (1950): 肺デストマ寄生による脳症状, 岡山医学会雑誌, 62(4), 179. —40) 戸田孝 (1950): 脳内肺デストマ症の手術治験例 4 例, 精神々経学雑誌, 52(1), 40~46. —41) 富田幸美: 永見智 (1952): 脳脊髄内寄生症状の先行した肺デストマ症の一例, 児科診療, 15(11), 753~757. —42) 植松七九郎 (1934~1936): 脳膜炎を供える脳肺デストマ症, 実験医報, 21, 1491~1497. —43) 氏家秋果 (1951): 肺デストマの脳内転移の一例, 日本外科学会雑誌, 52(5), 264. —44) 内野文彌 (1955): 肺血管系の形態学的研究, 第 I 報, 日病会誌, 44(2), 229~242. —45) 山根真平 (1949): 肺吸虫症による脳膿瘍の 2 別出治験例, 脳と神経, 4, 281. —46) 横川宗雄 (1956): 肺の寄生虫, 診断と治療, 44(4), 88~95. —47) 吉川昭治 (1954): 肺デストマ虫の脳内寄生による癲癇の一例, 日本外科宝函, 23(3), 279.

Summary

An analytical research was performed about 94 cases of cerebral and spinal paragonimiasis and following results were obtained:

1. The cerebral and spinal foci consist of 3 zones, namely central zone is composed of necrotic focus, egg, giant cell and Charcot-Leyden's crystal, middle zone connective tissue, and peripheral zone infiltration of plasma cell, lymphocyte, eosinophilic leucocyte and glia cell.

2. Tubercle type focus consists of exudative inflammation induced the parasite and egg, and subsequently the focus alters for productive inflammation. Cystic type focus is type of cyst of softening.

3. On cerebral paragonimiasis the statistical observation was performed, and some consideration and deduction on migration for the brain of worm and diagnosis of cerebral paragonimiasis, was attempted.

報告者名 文献番号 年月日	患者 年齢 性	居住地	経過	臨床症状	脳主所見	脳 母虫卵	内 卵	肺 母虫 内虫 其他
大谷 東京医学会雑誌 1巻8号 1887年	26 ♂	熊本県	約半年	突然癲癇様発作 同様発作頻発	右前頭葉後頭葉米粒 大〜鳩卵大多数連絡 絡す	+	+	+
井上, 山極 東京医学会雑誌 第3巻8号 1889年	29 ♂	青森県 菓子 製造	約1年1月	眩暈人事不省 左肢痙攣, 視障碍 Jackson's Epilepsie	右半球の後頭, 側頭 及び正中線後部 大脳皮質に局在せる 病巣がある。	-	卅	+
井上善次郎 岡山医学会雑誌 第88号 1897年	20 ♂	岡山県	約6年	突然頭痛右 upper 肢及び 右顔面痙攣 右 upper 肢麻痺	1. 幼時より肺吸虫症 あり 2. 右顔面, upper 肢に痙 攣, 麻痺を遺残 3. 右陳旧肋膜炎等よ り大脳皮質の運動 領の一部侵された ものと診断	髄液の検査 はない		
	20 ♂	岡山県	約6年	癲癇発作, 抽搐		肺吸虫症の 診断肺吸虫 の脳寄生に よる癲癇と 診断		
桂田, 藤木 東京医学会雑誌 13巻12号13号 1899年	36 ♂	岡山 津高郡	約1年半	頭痛, 眩暈, 右半身 不随, 言語障碍 右腕反射亢進 右軀幹痙攣	左顳顬葉, 後頭葉 海馬廻転, 鈎状廻転 に至る鶏卵大乃至小 児手拳大, 隔壁にて 数コ相隣る	-	+	+
池田廉一郎 東京医事新誌 1250~1262 1902年	17 ♀	熊本県	約2年?	頭痛, 眩暈, 痙攣 人事不省 四肢痙攣	右半球 詳細不明	-	+	肺には卵 を認めず 同一例か
三角, 谷口 Srch. f. Psy. u. Nervenkr. Bd. 38. 101~ 121 1906年 谷口が発表	17 ♀	熊本県	3年	癲癇発作, 頭痛, 眩暈	右前葉鶏卵大, 海馬 角底に鳩卵大の Cys- te レンズ核, 視, 床, 内, 外包に小出 血斑, 頭頂葉, 中心 溝にも多数のレンズ 大から帽針頭の囊腫	-	卅	
島村, 角田 角田発表 Wien M. Woch enschrift Nr. 47, 48 1908年 東京医学会雑誌 21巻3号 1907年	16 ♂	近江	約半年	頭痛, 眩暈, 両下肢 運動麻痺 全身痙攣	脳水腫 右前頭, 頭頂葉に鳩 卵大の Cyste 数コ視 床, レンズ核, 内包 に豌豆大から雀卵大 のもの小さい Cyste 多数, 互に連絡あり	視 床 と 内 包 間 の Cyste に 虫 体 一 対 +		
唐 沢 児科学雑誌 127号 889~921 1910年	7 ♂	沼津市	約2年	左上下肢運動麻痺, 下肢震顫, 頭痛, 痙攣発作 視力障碍	右側頭葉, 後頭葉, 頭頂葉, 鈎状廻転 海馬廻転, 島	-	卅	-

報告者名 年 月 日	患者 年齢 性	居住地	経過	臨床症状	脳主所見	脳 母 虫	内 卵	肺 其 他	内 虫 其 他
桂 田 東京医事新誌 1723~36 1910年	33 ♂		約 4 年	右半身痙攣 Jackson's 癲癇様発 作	左後頭葉, 隅角 廻転, 半流動性 嚢胞	+	+	-	
三角, 豊田 鎮 西 医 報 第 103 号	16 ♂	熊本県	約 1 年 3 カ月	視神経炎, 其の他神 経症状 右顔面の突然搐搦発 作 左顔面筋, 上肢に痙 攣発作	右後頭葉, 側脳室後 角の後部に扁平なる 嚢胞	-	+		胸骨剣状突 起下筋層内 に 2 個の虫 体
三 角 鎮 西 医 報 第103号	13 ♂				左側頭葉, 後頭葉に 多数の大小の相連絡 の嚢胞	-	卅		肺に虫体寄 生
中 山 東京医学会雑誌 24卷15号 1910年	9 ♂		約 7 カ月	左上肢の脳性麻痺, 脳膜炎症状	右レンズ核附近鳩卵 大結節, 両脳室拡大	-	+		
小 林 朝鮮医学会雑誌 6号 1912年	38 ♂	朝鮮人	約 10 年	癲癇様発作 左上下肢運動障碍	右後頭葉に米粒大乃 至拇指頭大の 5 個の 乾酪様物質を有する 病巣	-	+		
稲 本 朝鮮医学会雑誌 16卷 1915年	23 ♂	朝 鮮	約 7 年	突然左半身痙攣, 同 側間代性痙攣, 同 側半身不随 右側下腿内側知覚鈍 麻, 左右腱反射亢進	左前頭, 頭頂, レン ズ核, 内嚢に病巣, 右側頭葉, 大脳核, 内嚢に米粒大~指頭 大の多数の嚢胞	-	+		肺病巣あり
稲 本 同 上	19 ♂				左側頭, 後頭葉 右後頭葉	-	+		肺病巣あり
稲 本 同 上	25 ♂	朝 鮮			左 後頭葉 右 後頭葉	-	+		同 上
稲 本 同 上	54 ♂	同 上	約 2 年	頭痛, 突然人事不省 右半身不随, 失神, 全身痙攣	左頭頂葉, 指頭大結 節硬膜内面に暗赤色 膜様新生組織あり, 一部脳底に達す。	-	+		同 上
稲 本 同 上	21 ♂	同 上	約 3 年	左上下肢運動障碍頭 痛, 眩暈, 失神, 上 下肢疼痛, 左顔面神 経麻痺	右後頭葉に麻実大か ら拇指頭大結節多数	-	+		同 上
稲 本 同 上	33 ♂	同 上			左 側頭葉 右 前頭葉	-	+		同 上

報告者名 文献番号 年月日	患者 年齢 性	居住地	経過	臨床症状	脳主所見	脳 母	内 虫	肺 母	内 虫 其 他
稲本 朝鮮医学会雑誌 16巻 1915年	38 ♂	朝鮮	約10年	28歳から月1~2回 人事不省 左上肢運動障碍 頭痛, 言語障碍	右後頭葉に粟粒大の 3コの結節 左右側脳室の拡大内 脳水腫のため脳質非 薄となる。	-	+	肺病巣あり	
稲本 同上	21 ♂	朝鮮			左側頭葉, 左後頭葉 左小脳, 右後頭葉	-	+	同上	
森安 朝鮮医学会雑誌 16号 1917年					脊髓硬膜外 異所寄生				
同上	23 ♂	朝鮮人	約1年	言語障碍, 卒倒, 左半身麻痺 喀痰卵(+)					
同上	34 ♀	同上	約4年	頭痛, 眩暈, 右半身 知覚異常 右上下運動不能 喀痰卵(+)					
同上	29 ♂	同上	約7年	全身痙攣, 人事不省 左上肢に無力感 左半身不隨 喀痰卵(+)					
同上	26 ♂	同上	約4年	右半面顔面痛, 頭痛 言語障碍 右半身麻痺 卵(+)					
同上	31 ♀	同上	約4年	眩暈, 頭痛, 人事不省 左上下肢運動不隨 言語障碍 左半身麻痺					
同上	33 ♂	同上	約5年	精神朦朧 左半身麻痺 弱視眩暈 左半身知覚障碍 全身痙攣, 癱瘓					
同上	21 ♂	同上	約2年	左拇趾運動障碍 左下肢知覚異常 人事不省 左半身知覚麻痺					
同上	30 ♂	同上	約10年	右手指痙攣即上肢, 肩胛部, 大腿, 下腿 の順に発病 右半身不隨 重聴					
同上	52 ♂	同上	約2年	頭痛, 眩暈, 嚥下困 難, 言語障碍 左上肢運動障碍 左半身不隨及び知覚 異常					

報告病名 文献番号 年 月 日	患者 年令 性	居住地	経過	臨床症状	主脳所見	脳 母 虫 卵	内 卵	肺 母 虫 其の他
森 安 朝鮮医学会雑誌 16巻 1917年	21 ♂	朝鮮人	約 4 年	左上下肢運動障碍 頭痛, 人事不省	右後頭部に結合織に 包まれた病巣3コ, 多数の病巣散在	-	卅	
同 上	38 ♂	同 上	約 10 年	人事不省 左上, 下肢に運動障 碍	右頭頂部, 右後頭葉 の3コの栗実大病巣	-	卅	
同 上	23 ♂	同 上	約 6 年	右半身痙攣, 間代性 痙攣 右半身不随	左レンズ核乾酪様病 巣 左前頭葉下面に小軟 化巣	-	+	
同 上	53 ♂	同 上	約 2 年	頭痛, 嘔吐, 不眠, 右半身不随痙攣発作	左後中心廻転に軟化 巣	-	+	
同 上	16 ♂	同 上	約 3 年	発熱, 頭痛, 右半身不随 視力減退				
川村, 山口 北越医学会雑誌 第33年第6号 1918年	18 ♀	新潟	約 8 年	突然の痙攣発作 眼筋痙攣 癲癇様発作	前頭葉 (両側) 左側頭葉, 帽針頭大 拇指頭大の結節群集 処々に軟化巣	-	卅	
沢 田 北越医学会雑誌 第33年第6号 1918年	14 ♂	新潟 日本人	約 2 年	頭痛, 嘔吐, 左上肢 運動不全萎縮 喀痰中卵 (+)				臨床講義
	15 ♂	同 上		真正癲癇様発作 病巣症状なし卵 (+)				
	12 ♀	同 上		右下肢の間代性痙攣 右上, 下肢運動不全	出卵なし (-)			
森 安 朝鮮医学会雑誌 26巻 1919年	22 ♀	朝鮮	約 2 年	人事不省, 右半身間 代性痙攣 知覚異常あり	虫 卵 (+)			臨床講義
木 村 東北帝大病理学 教室1の2 1921年								不 詳
鈴 木 神経学雑誌 20巻 1921年	9 ♂	愛媛	約 10 ヲ月	左上肢麻痺 脳膜炎症状 左上肢脳性麻痺	右レンズ核附近の鳩 卵大の結節 両側脳室の拡大及び 小出血	-	+	-

報告病名 文献番号 年 月 日	患者 年令 性	居住地	経過	臨床症状	主脳所見	脳 母 虫 卵	内 卵	肺 母 虫 卵	内 虫 其 他
鈴木 神経学雑誌 20巻 1921年	6 ♀	愛媛	約3年	初め墜落してから意識を失い半身攣攣性痙攣、左完全麻痺、歩行困難、癲癇発作	右前頭葉、ジルビー氏溝側頭葉側及び下面に豌豆大及び蚕豆大の結節多数	-	+	-	
池田 児科雑誌 266 1922年	11 ♂	徳島	約1年	突然左上肢に鈍痛、強直、頭痛発作、左上肢の痙攣発作、全身痙攣発作、諸脳神経麻痺	右頭頂葉、前頭葉 蚕豆大〜鳩卵大の囊胞数個				
桂田 池田の文献より引用 桂田博士私書簡による		岡山			右下前頭廻転、外眼窩廻転 左側頭葉、紡錘廻転 海馬廻転、扁桃核、島、外囊レンズ核、内囊				
水津 朝鮮医学会雑誌 43 1923年	23 ♂	朝鮮人							
久保、岡本 日本病理学会会誌 14年 1924年	20 ♂	同上		頭痛、左手足の脱力感、左上下肢痙攣、強直性痙攣	右視神経末の虫性囊胞、視神経交叉より下部に示指頭大結節多数、レンズ大、豌豆大囊胞形成	+	+	+	脳室内に母虫寄生
青木、松村 神経学雑誌 29巻3号 1928年	44 ♂ 医師	大分	約4ヵ月	頭痛、言語障碍 右顔面神経麻痺 四肢上下肢弛緩	左側頭葉の中央に白質全体に亘る軟化巣 レンズ核後端にも軟化巣				
赤岩、八田、村田 日本外科学会雑誌 32回 1931年	9.6 ♂	広島	約2年	突然左頰部攣攣、頭痛発作、左手強直性痙攣発作、左半身運動麻痺、知覚麻痺、左顔面神経麻痺、左同側性半盲症	右側頭葉並びに島実質内に介在する結節 附近脳軟化症	-	+	+	開頭術
池袋 臨床小児科学雑誌 11号 1933年	4.2 ♂	熊本	約4ヵ月	突然左下肢不全麻痺 頭痛、嘔吐、左上肢麻痺、左顔面神経麻痺	右側脳室壁の拇指頭大、結節、左前頭葉内溝に面し拇指頭大結節	-	+		
植松 実験医報第21年 250号 1471 1935年	33 ♂	朝鮮から東京移住 朝鮮人	約1年	突然癲癇様発作、左手の振顫、更に左腕、左上下肢全般の間代性痙攣、上肢特に強い	病巣右半球、脊髄液の好酸球の存在から診断				臨床講義
隅田、森本 長崎医学会雑誌 14巻上 1936年	35 ♂	長崎	約1年	肺吸虫症経過中にJackson's Epilepsieを来し半身不随を来す (右運動障碍)	左前頭葉中心廻転部の鶏卵大囊腫、前中心廻転上部3分の2に於ける軟化巣形成、手術、治癒	-	+	+	手術 肺肺吸虫症

報告者名 文献番号 年月日	患者 年齢 居住地	経過	臨床症状	脳主所見	脳内 母虫卵	肺内 母虫 その他
小沼, 塩崎 医事公論 1228号4 1229号5 1936年	33 朝鮮人 ♂					植松と同一例か
小松 眼科臨床医報 33卷3号 1937年	24 朝鮮人 ♂	約 4 年	閃輝暗点様発作 左半盲症 色視野の左半部欠損	右後頭部附近の嚢腫様病変? 脳室撮影で右側脳室は後下方から左上方に押し上げらる	Liquor中に卵は認めない	
布施 診療と経験 2卷10冊 1938年	17 ♀ 朝鮮人	約 3 年	頭痛痙攣発作			臨床講義
山田 東京医事新誌 3070号 1938年	8 ♂			側脳室壁の粟粒大~ 桜実大肉芽腫	-	+
小山 成医会雑誌 58卷11号 1939年	7 ♀ 伊豆		嘔吐, 頭痛, 発熱, 意識濁濁, 振顫			伊藤, 加藤報告と同一例?
李柄南 朝鮮医学雑誌 29卷9号 1939年	14 ♀ 朝鮮人	約 6 年	頭痛, 左上下運動 麻痺, 嗜眠状態, 軽い痙攣	左後頭葉の豌豆大~ 小豆大 右後頭葉中央白質 拇指頭大軟化巣, 両側脳室水腫右特に甚し。	-	+
野々村 岡山医学会雑誌 53年 臨床特集1号4 1941年	30 ♂ 朝鮮人		突然, 後頭痛, 眩暈 嘔吐, 頭部硬直, 末梢性左顔面神経麻痺, 左耳鳴, 難聴, 眼球震盪, 脳底脳膜炎		脊髓液の好酸球增多症より脳肺吸虫症と診断	
伊藤, 加藤 成医会雑誌 第60卷第2号 1941年	7 ♀ 伊豆	約 4 カ月	頭痛, 嘔吐, 全身 震顫	左前頭葉皮質部鳩卵大軟化巣及び該部硬脳膜, 限局性纖維性癒着, 内嚢軟化巣	-	++ 臨床は小山が既に報告
星 児科雑誌 47卷11号 1941年	5 ♂ 静岡県		一夜にして失明 時々頭痛, 嘔吐あり 眼底に視神経萎縮	左大脳部に肉芽腫あり, 視神経交叉部に出血あり,	-	+
杉山 臨床医報 14卷下 (第616号) 1942年	28 ♂ 朝鮮人	約 3 年	視力障碍, 複視, 右上下肢知覚鈍麻及び痙攣, 右同側性半盲症	血中好酸球增多症及び脊髄液内に好酸球の多い点から診断, 脳底に嚢腫形成したものと診断	髄液内に好酸球が多い	喀痰内卵 (+)

報告病名 文献番号 年 月 日	患者 年令 性	居住地	経過	臨床症状	脳主所見	脳 母 虫 卵	内 卵	肺 母 虫 其 他
岩 鶴 神戸市民病院 臨床集報7集 165 1942年	30 ♂	朝鮮人		初期に脳膜炎を疑し めたる症例で血液内 に好酸球增多症、咯 痰中に肺吸虫卵あり 髄液中に好酸球增多 症の存在から肺吸虫 の脳寄生と診断				臨床所見か ら脳寄生例
酒井、鐘 台湾医学会雑誌 42巻3号P333 1943年	7 ♀	朝鮮人		初期に脳膜炎を疑う、 好酸球增多症、髄液 好酸球增多症、咯痰 中肺吸虫卵(+)等か ら診断				臨床所見 から
山 根 脳と神経 4号281 1949年	16 ♂			癲癇	左前頭葉の囊腫性 膿瘍	-	+	手術例
	8 ♂			左半身麻痺	右後頭葉から側頭葉 後半部に亘る囊腫性 膿瘍	-	+	手術例
佐々木 臨床眼科 3巻 8号 P336 1949年	34 ♂			左後頭痛と右側同名 半盲	大脳左後頭葉から、 肺吸虫卵を認めた拇 指頭腫瘤(皮質内)			手術
岡崎忠夫 臨床外科 3巻2号 1950年	42						髄液の好酸 球增多症よ り診断	臨床所見 から診断
戸 田 精神神経雑誌 52巻1号 1950年	9 ♂	兵庫県 城崎郡 竹野	約1年半	突然全身痙攣発作、 頭痛、嘔吐、左半身 麻痺、言語障碍、 啞	右側頭部硬膜下4cm に腫瘤、切開に漿液 膿汁様液の流出 小指頭大～拇指頭大 囊腫を認めた	-	+	手術 軽快退院
同 上	7 ♂	京都府 竹野郡 網野町	約10ヵ月	突然頭痛、嘔吐、 痙攣発作、右半身麻 痺	左側頭葉後頭葉に硬 い腫瘤 小指頭～胡桃大の小 囊腫8コ全体として 鷲卵大	-	+	手術退院
同 上	12 ♂	兵庫県 加東郡 上福田 村	約5年	発作性頭痛、嘔吐、 両眼視力障碍	左後頭部示指頭大乃 至胡桃大囊腫4コ合 併して鷲卵大となる	-	-	好酸球增多 症ある点か ら診断
同 上	8 ♀	京都府 網野町 港	約1年	発作性頭痛、両眼視 力障碍複視 右半身運動障碍	左側頭葉5mm深部 に腫瘤を認め豌豆大 ～拇指頭大のもの15 個、皮質下15mmに 小豆大虫体1 左側頭葉～後頭葉の 前半に達する	+	+	手術

報告病名 文献番号 年 月 日	患者 年令 性	居住地	経過	臨床症状	脳主所見	脳 母 虫 卵	内 母 虫 卵	肺 母 虫 卵	内 虫 其 他
高坂, 松村 岡山医学会雑誌 62年4号 179 1950年	第一例 第二例 第三例 第四例 第五例			脳炎の如き経過をとる Jackson's Epilepsie を起し脳腫瘍像を呈す 四肢, 身体一部の痙攣 惹起 小脳症状, 脊髄神経麻痺					手術
光野 脳と神経 4巻1号 1951年	13.10 ♀		約 7 年	頭痛, 嘔吐, 痙攣, 左半身不随, 発熱	右側頭葉に 321g 腫 瘍あり	-	+		手術
光野 脳と神経 4巻1号 1951年	9.6 ♂		約 9 カ月	頭痛, 眩暈発熱, 左上肢軽微運動及び 知覚麻痺, 視力障碍	右頭頂, 後頭葉にま たがる77.5g 腫瘍	-	+		手術
陣内 脳と神経 4巻1号 1951年 光野に追加	4 ♀ 8 ♂		約 11 カ月	発熱, 嘔吐, 左半身 麻痺, 痙攣	右側頭葉に 17.9g 腫瘍あり, 脳表面粟粒大結節あ り, これが鳩卵大の 範囲卵結節である	-	+		手術
氏家 日本外科学会雜 誌 52回5号264 1951年	5 ♂	静岡県	約 4 年	突然痙攣発作あり 左顔面神経麻痺, 血管撮影で右大脳半 球の Geioma と診 断	右側頭葉に鷲卵大の 囊腫状の腫瘍, 肺吸虫母虫を認める	+	+		手術
花沢 日本病理学会 地方会号40 1951年 新潟医学会雑誌 67年7号 627 昭28	7.11 ♂	新潟	約 4 年	穿然痙攣, 共同偏視 左上下肢震顫, 右眼瞼下垂, 顔面神経麻痺	右後頭葉の囊胞 大脳中央部の大部分 占める。 鷲卵大囊腫 (7×7.5×5.5cm)	-	+		剖 検
杉原 岡山医学会雑誌 61年3号p.79 昭24-4 臨床内科, 小兒 科7巻6号 p. 273 1952年	8 ♂	朝鮮人	約 4 年	突然叫声と共に癲癇 様発作 右上肢麻痺	左前中心廻転, 皮質 に示指頭大の病巣	-	+		剖 検
赤松 児科診療 15巻5号 360 1952年	14 ♂	伊豆 狩野川 支 流	約 2 年	脳性小兒麻痺, 脳腫瘍, 肺結核と診 断		-	+		症状及び肺 吸虫卵の存 在より診断 解剖 喀痰中

報告病名 文献番号 年 月 日	患者 年令 性	居住地	経過	臨床症状	脳主所見	脳 母 虫	内 虫 卵	肺 母 虫	内 虫 其の他
富田, 永見 (米子博愛病院) 眼科診療15巻 11号 753 1952年	6 ♂		約 2 年	転倒, 意識消失, 痙 攣あるも軽快歩行不 良, 胸背部痛					Emetin 注 射後症状消 失
江 本 臨床外科 9巻4号 1954年	8 ♀	徳島県	約 5 カ月	頭痛, 嘔吐, 其の後 急速に眼が見えなく なる	右後頭葉の皮質及び 皮質下に大豆大~蚕 豆大の嚢腫多数	-	+		剖 検 肺に病巣あ り
橋口, 時任 小児科診療 17巻 p. 286 1954年	5.9 ♂			頭痛, 右上下肢の運 動障 碍 レ線診断, 左大脳腫瘍の疑	左頭頂葉に小児手掌 大嚢腫性腫瘤, 一部重量62 g	-	+		手 術
吉 川 日本外科宝函 第23巻3号 p. 279 1954年	19 ♀		約 10 年	9歳から左上下肢シ ビレ感寒冷感, 全身痙攣発作	右側頭廻転部に皮様 嚢腫様のもの2コ	-	+		手 術 治
森 岡 山口臨床医学 3巻 1955年	39 ♂	朝鮮人	約 1 年	突然痙攣発作 意識不明	左前頭部鶏卵大腫瘤	-	+		手 術 退
山口医大外科 (第二外科教室) 1955年 未発表	15 ♂	山口県	約 8 年	左上肢間代性痙攣 言語障碍	右頭頂, 側頭葉 拇指頭大~鳩卵大腫 瘍多数相集り大きな 腫瘤形成	-	+		手 術 退
道免, 安部 外科17巻 9号 678 1955年	49 ♂	佐賀県 で川魚 をたべ て以来	約 4 カ月	突然両下肢がだるく 歩行困難, 夜間腰痛 下肢動かず	X~XII B. W. I L. W. 硬膜外の嚢腫様組織	-	+		手 術
清 水 東京医事新誌 72巻9号474 1955年	19 ♀		約 13 年	癲癇発作 左上, 下線維搐搦 入院時左顔面神経麻 痺	右側頭葉, 下側廻 転, 紡錘状廻転部皮 髓質に亘る鶏卵大軟 化巣	-	+		剖 検
新 津 東北医学雑誌 51巻2号 1955年	43 ♂			左半身不随 Jackson 型癲癇	右頭頂, 側頭部の深 部の硬結	-	+		手術軽快
小野, 西井 日本外科学会雑 誌56回1号 1955年									手 術 詳細不明